

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2018.3.10)

アキュフェーズの新製品プリメインアンプ「E-650」とMCカートリッジ「AC-6」の試聴会に行ってきました。

日時：3月10日(土) PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



アキュフェーズ A級プリメインアンプ E-650 ¥788,400



アキュフェーズ MC型カートリッジ AC-6 ¥399,600



アキュフェーズ フォノイコライザーアンプ C-37 ¥594,000



アキュフェーズ SACDプレーヤー DP-560 ¥648,000



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



ラックスマン ベルトドライブプレーヤー PD-171A ¥534,600



当日のセッティング

#### <試聴の経過>

試聴は開発担当者による使用機器の詳しい説明を織り込みながら進行了ました。内容は省略しますが、下記サイトを参照願います。

<https://www.accuphase.co.jp/model/e-650.html>

<https://www.accuphase.co.jp/model/c-37.html>

[http://www.soundace.jp/SHOP/Accuphase\\_AC-6.html](http://www.soundace.jp/SHOP/Accuphase_AC-6.html)

最初はソプラノの歌劇のアリアとビオラとピアノのデュオの CD から始まり、次いでハリー・ベラフォンテのリマスターSACDに進みました。

アリアではバックのオーケストラのステージ感はよく出ていますが、間接音の響きが強すぎることに、ピアノも、間接音の響きが強すぎることに、ビオラの質感の強調感が強すぎることに気がなりました。

アンプのせいかと思っていましたが、この後アナログをかけると、このことは払しょくされ、デジタルプレイヤーの音つくりの問題かなと思っています。

次に AC-6 と E-650 に組み込んだフォノイコボードの AD-50 の組み合わせで、男性ボーカルと Jazz トリオのアナログ盤に進みましたが、声の質感、楽器の質感、特に Jazz のベースの切れ味や弾み具合など、アナログソースの良さが味わえるようになりました。

ここでフォノイコボードの AD-50 から、別躯体のフォノアンプ C-37 に替えてビッグバンド、女性の演歌がかかりましたが、さらに質感や音の分離などが向上し、AC-6 と C-37 の組み合わせの妙がよく味わえたと思います。

次に DAC ボードの DA-50 の準備の間に、フルオーケストラの CD がかかりましたが、アナログを聴いた後では、分が悪い印象でした。

DA-50 の試聴は Mac からの USB 入力で 2.8MHzDSD 録音一発録りの Jazz ボーカルの再生がありましたが、DSD 録音の良さが出ていました。

<まとめ>

AC-6 は[河口無線のカートリッジ試聴会](#)でも聴いていますが、その時は Lux のフォノイコとの組み合わせで、今回の純正のフォノイコとの組み合わせで本来の AC-6 の良さが発揮されていたと感じました。

以上